

鳥根県邑智郡瑞穂町

坂根谷遺跡発掘調査報告書

高見出羽線新世紀道路(生活関連)工事に伴う発掘調査



2002年3月

鳥根県邑智郡瑞穂町教育委員会



a. 縄文時代竪穴住居跡（南西から）



b. 1号墳（西から）



c. 2号墳（北から）



d. 3号墳（西から）

序

瑞穂町は遺跡の町といわれるように、多くの埋蔵文化財が町内各地に点在しております。これらの貴重な文化財の保存保護・活用のため、分布調査や発掘調査を実施しているところであり
ます。

この度、県道改良工事に先立ち瑞穂町原村地内に存在する坂根谷遺跡の発掘調査を行いました。調査の結果、古墳3基をはじめとして貴重な資料を得ることができました。この報告書は、その調査結果をまとめたものであり、広く各方面でご活用いただければ幸いです。

なお、調査にあたりご指導いただいた広島大学文学部河瀬正利先生、鳥根県文化財保護指導委員吉川正氏、鳥根県教育委員会文化財課をはじめ関係各位に対し深く感謝申し上げます次第であります。

平成14年3月

瑞穂町教育委員会

教育長 三宅正隆

例 言

1. 本書は、鳥根県邑智郡瑞穂町大字原村1166番地外における県道高見出羽線道路改良工事に伴い、平成12年7月3日から12月7日にわたって実施した坂根谷遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は鳥根県川本土木建築事務所から委託を受けて、瑞穂町教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆・編集は森岡弘典及び佐々木義彦が行った。
4. 本書掲載の図面作図は、森岡弘典、佐々木義彦、市山眞由美が行った。
5. 本書掲載の写真の撮影は森岡弘典、佐々木義彦が行った。
6. 本書に掲載した地形図（第2図）は国土交通省国土地理院長の承認を得て（承認番号平成7中複第276号）同院発行の25,000分の1を複製した瑞穂町管内図を使用したものである。
7. 本書の地形図に表示したX軸Y軸は国土調査法による第Ⅲ座標系の軸方向である。地形測量図、遺構測量図の矢印は磁北を指している。
8. 本書で使用した遺構、遺物の略号は次のとおりである。
SI-住居跡、SK-土坑
9. 断面黒塗の土器は須恵器である。
10. 調査記録、出土遺物は瑞穂町教育委員会で保管している。
11. 地形測量図は測地技研株式会社に委託した。

坂根谷遺跡発掘調査報告書

目次

序	頁
I. 調査に至る経緯と調査経過	1
II. 坂根谷遺跡の位置と環境	5
III. 調査の概要と出土遺物	10
IV. まとめ	29
付編	
坂根谷遺跡から出土した顔料の分析 バリノ・サーヴェイ株式会社	31

図版・挿図・表目次

図版第1	a. 調査前遠景(北から) b. 同近景(同) c. 同(南から)
図版第2	a. 第1調査区調査前近景(北西から) b. 第1調査区出土旧石器 c. 同
図版第3	a. 第1調査区出土旧石器 b. 同 c. 同剥片
図版第4	a. 第1調査区出土旧石器剥片 b. SI-1完掘状況(南西から) c. SK-1検出状況(北から)
図版第5	a. SK-1完掘状況(北から) b. SI-1・SK-1完掘状況(北西から) c. SK-1出土遺物(外面)
図版第6	a. SK-1出土遺物(内面) b. SI-1周辺で出土した遺物(外面) c. 同(内面)
図版第7	a. SI-1周辺で出土した遺物(外面) b. 同(内面) c. 同
図版第8	a. SI-1周辺で出土した遺物 b. 同 c. 同
図版第9	a. SI-1付近で出土した遺物 b. 同 c. 1号墳検出状況(西から)
図版第10	a. 1号墳完掘状況(西から) b. 主体部石棺検出状況(西から) c. 同(南から)
図版第11	a. 石棺蓋石除去後状況(西から) b. 主体部銅石・小口石配石状況(同) c. 同(同)
図版第12	a. 主体部銅石・小口石配石状況(西から) b. 石棺掘方検出状況(北から) c. 周溝北側土層断面(西から)
図版第13	a. 周溝西側土層断面(南から) b. 周溝内土器出土状況 c. 1号墳出土遺物
図版第14	a. 2号墳検出状況(北から) b. 2号墳完掘状況(北から) c. 同主体部完掘状況(南から)
図版第15	a. 2号墳主体部土層断面(東から) b. 2号墳出土遺物 c. 同
図版第16	a. 3号墳検出状況(西から) b. 3号墳検出状況(南から) c. 同完掘状況(西から)
図版第17	a. 3号墳周溝土層断面(南から) b. 3号墳出土遺物(外面) c. 同(内面)
図版第18	a. 1号古墓(左)・2号古墓(右)検出状況(北から) b. 1号古墓配石状況(東から) c. 2号古墓配石状況(南東から)
図版第19	a. 配石除去後掘方検出状況(北東から) b. 1号古墓土層断面(南東から) c. 2号古墓土層断面(南東から)
図版第20	a. 1号墓完掘状況(北東から) b. 2号墓完掘状況(北東から) c. 1号古墓(右)・2号古墓(左)完掘状況(南東から)
図版第21	a. 3号古墓検出状況(南から) b. 同土層断面(北から) c. 同完掘状況(北から)
図版第22	a. T-2調査区(南東から) b. T-4調査区(南東から) c. T-13調査区(西から)
図版第23	a. 1号墳調査風景(西から) b. 1号墳より矢広原・流田集落を望む(北西から) c. 現地見学会風景(西から)
第1図	瑞穂町域と道跡位置図……………4
第2図	坂根谷道跡付近道跡分布図(1:25000)……………7
第3図	発掘調査前地形測量図……………8
第4図	遺構配置図及び調査区設定図……………9
第5図	旧石器実測図①(1:2)……………10
第6図	旧石器実測図②(1:2)……………11
第7図	SI-1実測図(1:40)……………12
第8図	SK-1実測図(1:20)……………13

第9図	SK-1出土遺物実測図(1:1)	13
第10図	縄文土器実測図①(1:2)	14
第11図	縄文土器実測図②(1:2)	15
第12図	石器実測図①(1:2) 石鏃(1:1)	15
第13図	石鏃実測図②(1:1)	16
第14図	石鏃実測図③(1:3)	17
第15図	坂根谷1号墳墳丘土層断面図実測図(1:50)	18
第16図	1号墳実測図	19
第17図	1号墳埋葬主体部箱式石棺実測図(1:20)	20・21
第18図	1号墳出土遺物実測図(2:3)	22
第19図	2号墳実測図(1:30)	23
第20図	2号墳出土遺物実測図(2:3)	24
第21図	3号墳・3号古墓実測図(1:75)	25
第22図	3号墳出土遺物実測図(1:3)	25
第23図	1号古墓・2号古墓実測図(1:20)	26
第24図	3号古墓実測図(1:20)	27
第25図	トレンチ断面実測図①(1:80)	27
第26図	トレンチ断面実測図②(1:60)	28
第27図	トレンチ断面実測図③(1:80)	28
第1表	坂根谷遺跡出土遺物観察表	33

I. 調査に至る経緯と調査経過

今回調査を行った坂根谷遺跡は、島根県邑智郡瑞穂町大字原村1166番地外に所在する。遺跡の周辺には、公民館、社会福祉協議会、デイサービスセンター、小学校、保育園など公共施設が所在する。遺跡は瑞穂町役場から主要地方道吉田瑞穂線、県道高見出羽線を高原方面に約5キロメートル北進した地点に位置する。調査対象地に接する県道は高原、布施両地区住民の生活道路であるほか、瑞穂町立高原小学校児童の通学路でもあるが、狭小な幅員であるうえ急カーブのため見通しも悪く非常に危険であったため、早期の道路改良が望まれていた。

ところで、事業計画に先立ち、道路拡幅計画地内の遺跡の有無について瑞穂町教育委員会に分布調査の依頼があり、調査を行った。その結果、丘陵尾根上に箱式石棺を伴う古墳の所在が明らかになるとともに、遺跡に近接して、後期旧石器時代の遺跡として著名な横道遺跡も所在することなどから、遺跡の取り扱いについて川本土事務所と瑞穂町教育委員会で協議を重ねたが、遺跡の立地場所や県道の線形等を勘察すると遺跡内を通過せざるを得ないとの結論に達し、今回県道改良予定地内に所在する坂根谷遺跡の発掘調査を実施することとなった。

調査は、平成12年7月3日から平成12年12月7日にわたり次の調査体制で実施した。

調 査 員	森岡弘典（瑞穂町教育委員会主幹文化財係長）
調 査 補 助 員	佐々木義彦（瑞穂町教育委員会主事補）
調 査 指 導	河瀬正利（広島大学文学部教授） 吉川 正（島根県文化財保護指導委員） 島根県教育委員会文化財課
事 務 局	三宅正隆（瑞穂町教育委員会教育長） 越間弘幸（瑞穂町教育委員会教育課長） 桑野 修（瑞穂町教育委員会課長補佐） 石橋 悟（瑞穂町教育委員会課長補佐）
発 掘 作 業	麻原登、麻原美代子、石原八重美、稲垣葉子、上田忠満 上田千里、漆谷勉、小田実、桑野純子、桑本ミスエ 久保田孝子、小林文子、下石見見於、洲浜軍太郎、高梨敦男 高橋久夫、土佐房之助、中桐信枝、中村佐和子、貫里孝史 貫里初良、長谷川久夫、長谷川洋平、服部朋人、日高武司 日高房雄、日高政雄、松川直樹、松島利郎、山崎千代美 吉田連雄

発掘調査日誌抄録

2000 (平成12年)

6月27日 (火) 晴れ

発掘機材を搬入する。

6月28日 (水) 雨

本日より発掘作業を開始する予定であったが、雨天のため中止し、開始を7月3日からとする。

6月30日 (金) 曇り

2m×2mの試掘区を6ヶ所設定する。

7月3日 (月) 晴れ後雨

2m×2mの試掘区を新たに5ヶ所設定し、試掘調査を開始する。表土の掘削を行う。

7月6日 (木) 晴れ

吉川正氏現地調査指導のため来訪。

7月12日 (水) 晴れ

丘陵尾根上の古墳西側にトレンチを設定する。

7月17日 (月) 晴れ

B6試掘区にて須恵器片、石器の剥片が出土していることから、遺構の存在を確認するため、試掘区の拡張作業を行う。

7月19日 (水) 晴れ

試掘調査が終了した試掘区の写真撮影を行う。丘陵尾根上の古墳のトレンチ調査を開始する。

7月21日 (金) 晴れ

墳丘西側のトレンチにて周溝の一部を確認する。

7月25日 (火) 晴れ

丘陵尾根上全体をセクションベルトで四分割し、それぞれの調査区で表土掘削を開始する。

7月26日 (水) 晴れ

D9試掘区の南西側に露出している石組遺構の調査準備に取り掛かる。

8月1日 (火) 曇り

1号墳周溝の広がりの確認調査を行う。

8月8日 (火) 晴れ

1号墳周溝の検出作業を行う。西側では明確になっているものの、東側、北側は明確でないため、慎重に作業を行う。

8月10日 (木) 晴れ

表土掘削により出土した土器及び石器・剥片の取り上げ作業を行う。

8月11日（金）～8月18日（金）

現場休止

8月21日（月）晴れ時々曇り

吉川正氏現地調査指導のため来訪。

8月22日（火）曇り時々晴れ

近世墓の調査を開始する。丘陵上調査区の南西端部にて、1号墳とは別の周溝を一部検出した。もう一つの古墳の存在が想定されたため、南側に調査区を拡張する。

8月23日（水）晴れ

調査が終了した試掘区のセクションを実測する。引き続き南西端部の周溝の調査を行う。

8月28日（月）晴れ

B6試掘区の調査範囲を更に広げ、遺構の有無の確認作業を行う。

8月31日（木）晴れ時々曇り

広島大学・河瀬正利氏現地調査指導のため来訪。丘陵上調査区南端にて埋葬主体と周溝を検出する。二重土坑の埋葬主体であることが判明する。本古墳を第2古墳と呼称する。

9月1日（金）晴れ

B6試掘区にて周溝を一部検出する。

9月5日（火）晴れ

B6試掘区の周溝を完全に検出するとともに、周溝西端部より墓石の配列と思われる石組遺構を検出する。周溝の検出状況の写真を撮影した後、半裁作業に入る。

9月7日（木）晴れ

B6試掘区周溝の半裁作業終了後、墳丘主体部の調査を開始する。この墳丘墓を第3古墳と呼称する。

9月8日（金）曇り

吉川正氏現地調査指導のため来訪。近世墓完掘。

9月19日（火）

第3古墳主体部の調査の結果、埋葬主体部は消滅していたことが判明。完掘後写真撮影を行い、調査を終了する。

9月27日（水）

吉川正氏現地調査指導のため来訪。

10月3日（火）晴れ

本日より1号墳墳丘の調査を開始する。墳丘覆土、周溝埋土の除去作業を平行して行う。

10月4日（水）晴れ

箱式石棺の掘り方をほぼ検出するが、明瞭でない箇所もあるため、さらに精査する。周溝底部より土師器が出土する。

10月5日（木）晴れ

1号墳周溝の埋土除去作業を終了する。

10月6日（金）晴れ

午後1時30分頃作業中強い地震が発生する（鳥取西部地震）。扇溝内出土の土師器の取り上げを行う。箱式石棺の掘り方の検出作業を終了する。

10月10日（火）晴れ

第1古墳墳丘西側平坦面にて遺構の確認調査に入る。石棺の蓋石の検出作業を開始する。

10月12日（木）晴れ

石棺の蓋石の検出作業を終了する。

10月13日（金）晴れ

広島大学・藤野次史氏来訪。

10月16日（月）～10月24日（金）

現場休止

11月9日（木）晴れ

1号墳西側平坦面で出土した遺物の取り上げ作業を開始する。

11月10日（金）晴れ

石棺の蓋石を除去する。引き続き遺物の取り上げ作業を行う。

11月19日（日）晴れ

現地説明会を開催する（参加者93名）。

11月21日（火）曇り

1号墳西側平坦面の縄文遺構の確認調査を開始する。

11月22日（水）曇り

第1古墳の北西部にて土坑を1基検出する。

11月24日（金）曇り

22日に検出した土坑の南側で別の土坑を1基検出する。

11月29日（水）晴れ

縄文遺構の調査を終了する。

12月4日（月）晴れ

現場道具類の撤収作業を行う。

12月6日（水）～12月7日（木）

1号墳主体部の実測を行い、発掘調査を終了する。



第1図 瑞穂町域と遺跡位置図

Ⅱ. 坂根谷遺跡の位置と環境

鳥根県邑智郡瑞穂町は、鳥根県のほぼ中央にあたる邑智郡南部に位置する。南西から南東方向には中国山地が連なり、山地を境として広島県と接している。町域のほぼ中央を出羽川が東流し、その出羽川に向かって亀谷川、岩屋川、円の板川などの支流が注いでいる。出羽川とその支流の流域には沖積地や河岸段丘が形成されていて、特に瑞穂町田所から出羽にかけては広大な出羽盆地が発達している。また、出羽盆地中央部には規模の大きな河岸段丘が形成され、その上の平坦部には集落が形成されている。

今回調査した遺跡は出羽盆地北端部の出羽川左岸に広がる丘陵上に位置しており、出羽川からの比高差は30m～45mである。また、横道遺跡からは県道高見出羽線を隔てて南西側約200mの位置にある。

瑞穂町内では遺跡分布調査がすでに終了しており、分布調査後明らかになったものも含めて550ヶ所以上の遺跡が確認されている。半数以上の約300ヶ所が製鉄関連遺跡であるが、横道遺跡をはじめとして旧石器から歴史時代までの幅広い時代の遺跡が存在している。

旧石器時代の遺跡としては、横道遺跡⁴¹⁾（高見）、荒横遺跡⁴²⁾（岩屋）、堀田上遺跡⁴³⁾（市木）があり、約2万年以上前から瑞穂町域で人々が生活し始めていたことを示している。

縄文時代の遺跡としては、横道遺跡、長尾原遺跡（下亀谷・岩屋）、火畑遺跡（大草）、大字根遺跡（伏谷）が以前から知られていたが⁴⁴⁾、近年の調査により郷路橋遺跡⁴⁵⁾（市木）、今佐屋山遺跡⁴⁶⁾（市木）、堀田上遺跡⁴⁷⁾、道城遺跡⁴⁸⁾（上亀谷）、野田西遺跡⁴⁹⁾（上亀谷）、順庵原遺跡⁵⁰⁾（上亀谷・下亀谷）、沢陸遺跡⁵¹⁾（淀原）、川ノ免遺跡⁵²⁾（山田）の存在が明らかになった。そのほとんどは出土遺物から早期のものであると考えられるが、郷路橋遺跡では前期のものと思われるトチの実の貯蔵穴、晩期のもと思われる住居状遺構のほか、早期、前期、後期、晩期の土器が出土している。また、道城遺跡では晩期の土器が1点出土している。

弥生時代になると遺跡の数も増加し、堀田上遺跡、牛塚原遺跡（上亀谷）、野田西遺跡、順庵原遺跡、長尾原遺跡、淀原遺跡（淀原）、沢陸遺跡、川ノ免遺跡、石堂遺跡（和田）等がある。なかでも堀田上遺跡、牛塚原遺跡、順庵原遺跡、淀原遺跡からは前期の土器が出土しており、山間地域でも農耕が始まっていたことを示している。弥生後半になると遺跡数もさらに増え、それに伴い出土遺物も豊富になっている。人口も増加し、それを支える農耕も町全域で広く行われていたものと考えられる。

こうして社会が安定し、物質的に豊かになると社会構造の階層化が見られ、共同体の首長墓である順庵原1号墓（下亀谷）及び御華山墳墓群（鯛湾）が構築されるに至る。このうち順庵原1号墓は、全国初の四隅突出型墳丘墓の調査例となった。長辺10.8m、短辺8.3mで、2つの箱式石棺と1つの箱式木棺で主体部が構成されている。出土遺物は、第1主体部の棺外からガラス玉14個、第2主体部の棺外からガラス小玉49個、ガラス管玉3個である。また、墳丘に隣接してストーンサークル状遺構がみつかり、その周囲から葬送儀礼用の土器が出土している。また、御華山墳墓群は長尾原遺跡と出羽川をはさんだ対岸の段丘上に位置している。

古墳時代の遺跡のうち、住居跡は狼原遺跡（和田）、宇山遺跡（上原）、川ノ免遺跡、長尾原遺跡、順庵原遺跡、今佐屋山遺跡等がある。このうち長尾原遺跡では竪穴住居跡、土坑墓とともに鉄に関する遺構がみつまっている²⁵。また今佐屋山遺跡では竪穴住居跡とともに製鉄遺跡が発見されており²⁶、古墳時代後期には製鉄・鍛冶が始まっていたことを示している。

古墳は20ヶ所以上が確認されているが、その大部分は終末期に築造された小円墳と横穴墓である。前半期のもと考えられる古墳は御葦山古墳群（鱒淵）、淀田古墳群（三田市）で、いずれも直径が10mくらいの円墳または方墳である。また、竪穴式石室を有する段ノ原古墳（高見）も前期と考えられている。後期のもと考えられている古墳は大宇根古墳（伏谷）、塚田古墳（伏谷）、牛塚古墳群（上亀谷）、杉谷古墳群（下亀谷）、石堂古墳群（和田）であり、いずれも横穴式石室である。また、江迫横穴群は丘陵斜面に横から穴を掘り込んで墓室を作った横穴墓群である。

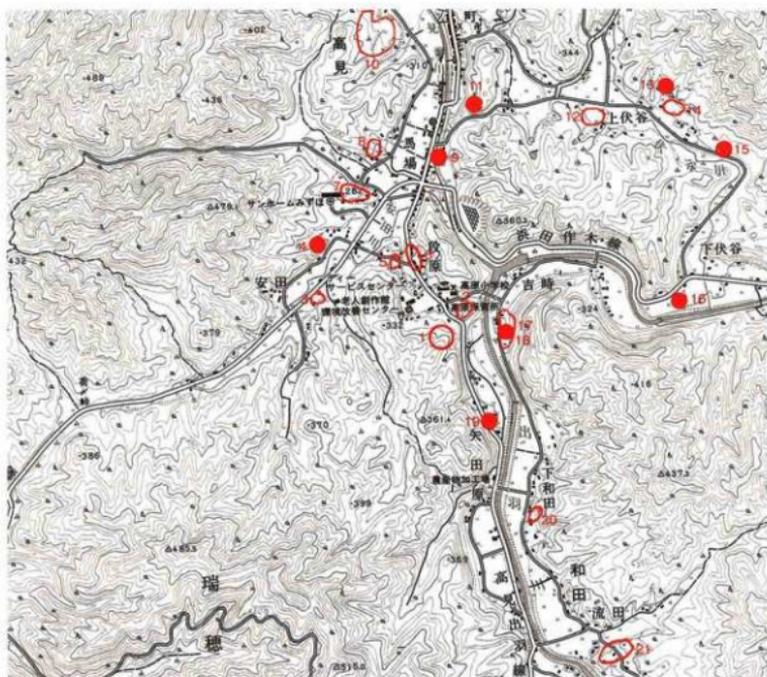
奈良時代の遺跡のうち、発掘調査により住居跡がみつかった遺跡は川ノ免遺跡²⁵、野田西遺跡²⁶、大金星遺跡²⁷である。そのほか古墳時代から奈良時代、平安時代にわたる須恵器の窯跡が数多く確認されている。旅行村グラウンド窯跡（出羽）、コオギヤスミ窯跡（鱒淵）、江迫窯跡（淀原）等、およそ20ヶ所に及んでいる。これらは総称して久永古窯址群と呼ばれ、鳥根県内において有数の須恵器産地であったと考えられている。

中近世になると山城や砦跡、そして多くの製鉄遺跡が確認されている。中でも鎌倉時代に富水（出羽）氏が築城したと伝えられ、出羽盆地を北から見下ろす二ツ山城は規模・構造ともに鳥根県内屈指の城跡であり、瑞穂町のシンボルの1つとして町民に広く親しまれている。

中近世の製鉄関連遺跡は、炉跡や大鍛冶屋跡などが数多く分布しており、その数は300ヶ所以上に及んでいる。また、砂鉄採集の鉄穴場は町内全域に分布しており、西中園山地の豊富な鉄資源を利用し盛んに製鉄が行われていたことを示している。

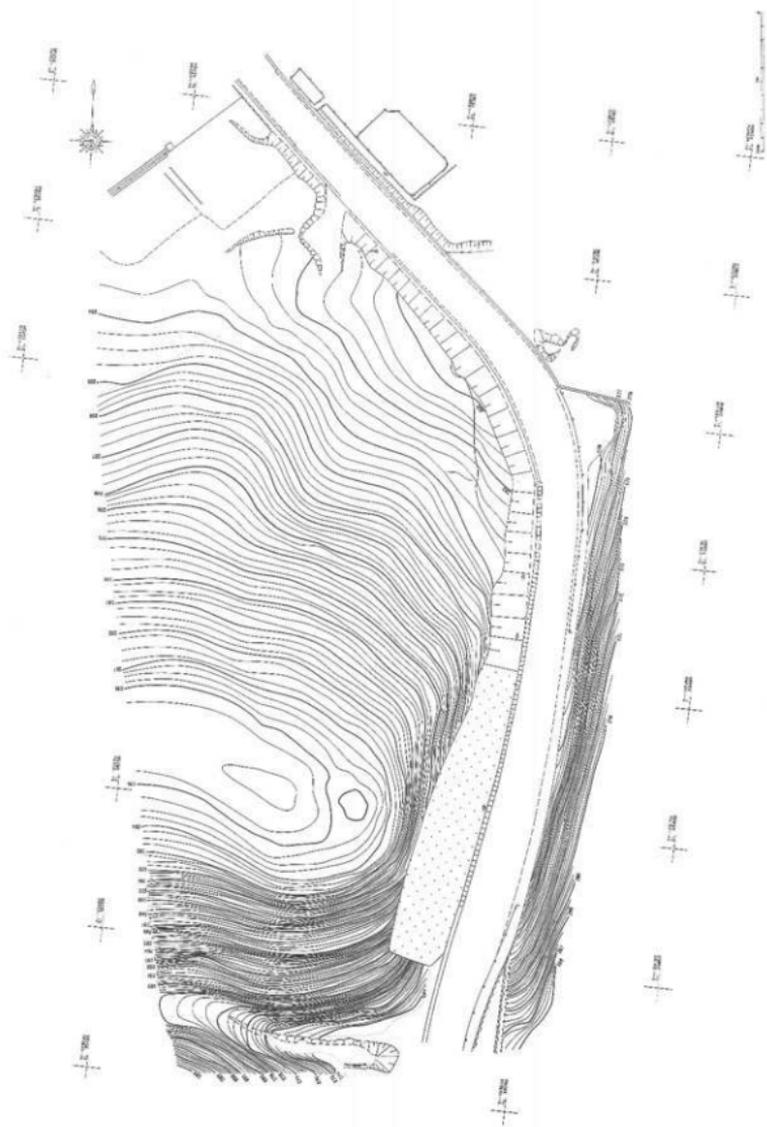
註

- (1) 河瀬正利『横道遺跡－詳細分布調査－』瑞穂町教育委員会 1983年
- (2) 古川 正『瑞穂町の遺跡1』『瑞穂町誌』第3集 瑞穂町教育委員会 1976年
- (3) 鳥根県教育委員会『主要地方道浜田八重町部線特殊改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』1991年3月
- (4) (2)と同じ
- (5) 鳥根県教育委員会『中国横断自動車道広島浜田線宇治地区埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』1991年3月
- (6) 鳥根県教育委員会『中国横断自動車道広島浜田線宇治地区埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』1992年3月
- (7) (3)と同じ
- (8) 瑞穂町教育委員会『いしへの瑞穂－水明カントリークラブ内埋蔵文化財発掘調査概要－』1995年3月
- (9) (8)と同じ
- (10) 瑞穂町教育委員会『順庵原遺跡発掘調査概要書』1995年9月
- (11) 瑞穂町教育委員会『沢陸遺跡発掘調査報告書』1998年10月
- (12) 瑞穂町教育委員会『川ノ免遺跡発掘調査報告書』1996年3月
- (13) 鳥根県川本農林土木事務所『農免道新設に伴う長尾原遺跡及長尾原一号墳調査概要』1969年2月
- (14) (6)と同じ
- (15) (8)と同じ
- (16) (8)と同じ
- (17) (8)と同じ

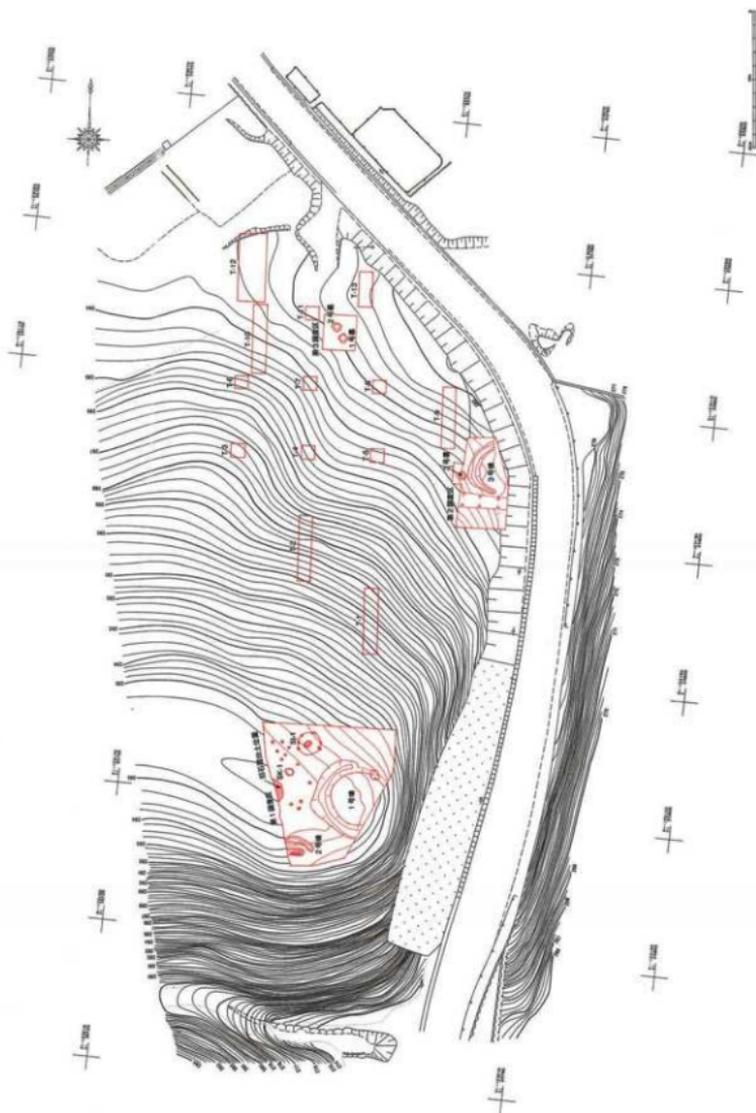


第2図 坂根谷遺跡付近遺跡分布図 (1:25000)

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1. 坂根谷遺跡 | 8. 八幡山遺跡 | 15. 倉谷遺跡 |
| 2. 横道遺跡 | 9. 寺山遺跡 | 16. 塚田古墳 |
| 3. 安田遺跡 | 10. 重石遺跡 | 17. 塚原古墳 |
| 4. 竹原田出口遺跡 | 11. 高見古墳 | 18. 塚原遺跡 |
| 5. 段ノ原A遺跡 | 12. 宮原遺跡 | 19. 矢広原古墳 |
| 6. 段ノ原B遺跡 | 13. 大字根古墳 | 20. 瀬戸遺跡 |
| 7. 賀茂山遺跡 | 14. 大字根遺跡 | 21. 杖平遺跡 |



第3圖 発掘調査前地形測量図



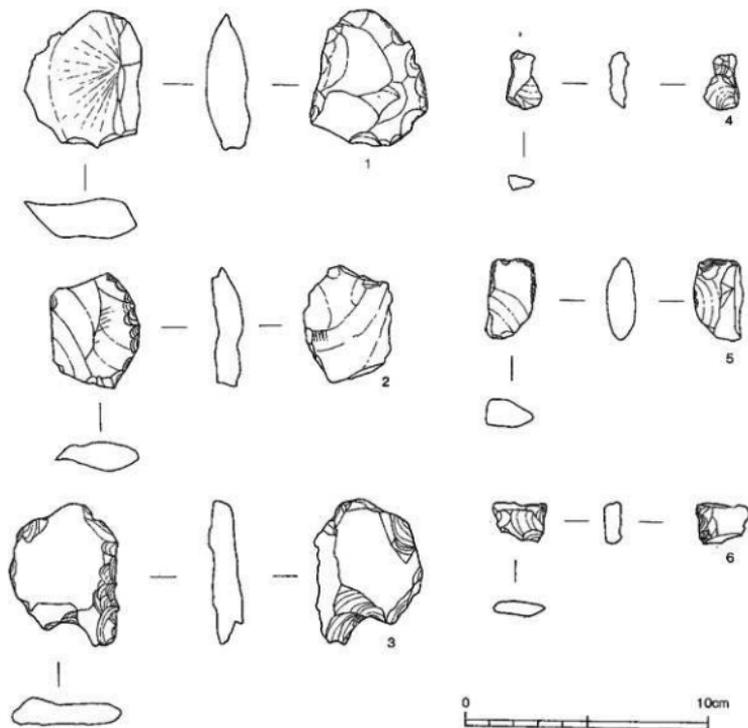
第4図 遺構配置図及び調査区の設定図

Ⅲ. 調査の概要と出土遺物

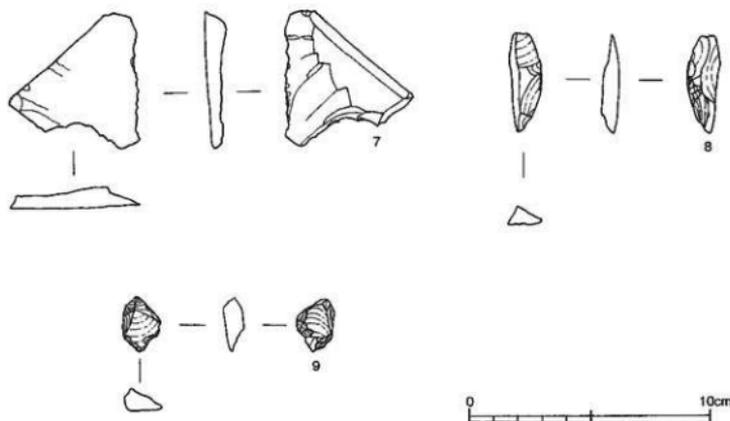
坂根谷遺跡は、高知県高知郡瑞穂町大字原村地内に所在する。現地は出羽盆地北端部、出羽川西岸の丘陵上に位置している。今回調査を行ったのは、県道高見出羽線道路改良工事で掘削される部分で、事前の分布調査により、箱式石棺を伴う古墳が確認されている。発掘調査により旧石器や縄文時代の遺構や遺物、古墳3基、古墓3基を検出した。

旧石器（第5・6図、第1表、図版第2b～4a）

第1調査区西側の丘陵最高所付近で旧石器又は旧石器の剥片と思われるものが約41点出土した。それらの中には、スクレーパーや楔形石器、台形様石器と思われるものが含まれる。石材は安山岩や水晶、流紋岩等がある。その内9点図化。出土付近は古墳造営期や電柱の引込線工事、水道パイプ敷設工事により攪乱されており、層位等是不明。



第5図 旧石器実測図① (1:2)



第6図 旧石器実測図② (1:2)

縄文時代の調査

第1調査区北側丘陵尾根上の平坦面で住居跡1棟、土坑1を検出。遺構周辺で石器、押型文土器等出土。

a. SI-1 (第4・7図、第1表、図版第4b、5b)

平面形・規模 不整形な円形で直径3.2m以上。

柱 穴 6本。

柱穴の規模 P1：径18～20cm 深さ19cm、P2：径25～30cm 深さ22cm

P3：径25～32cm 深さ31cm、P4：径20～22cm 深さ12cm

P5：径20～25cm 深さ22cm、P6：径18～22cm 深さ9cm

柱穴間距離 P1～P2：1.6m、P2～P3：0.85m、P3～P4：0.87m P4～P5：1.5m、
P6～P7：2.1m

屋内施設 隅丸長方形の中央ピット。規模 長さ1.1m、幅75cm、深さ約20cm。

出土遺物 なし。

時代 縄文時代早期。

備考 遺構周辺で縄文土器や石鏃出土。

b. SK-1 (第4～9図、第1表、図版第4c～6a)

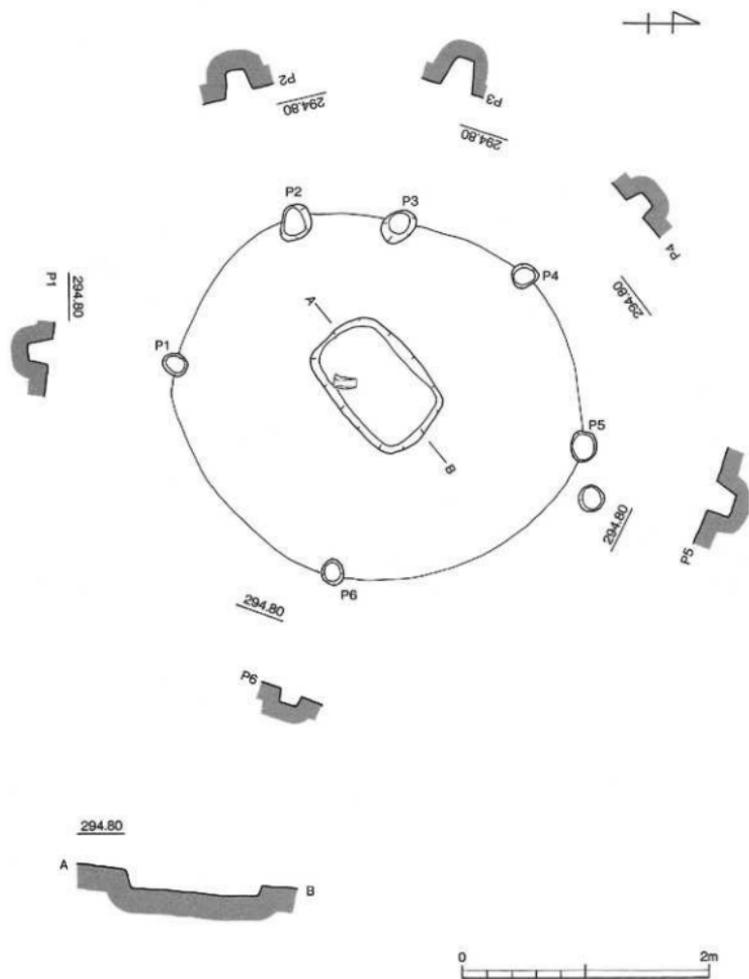
SI-1の南西約2.5mに位置する。

平面形・規模 真円で直径1.1から1.2m、深さ70cmである。

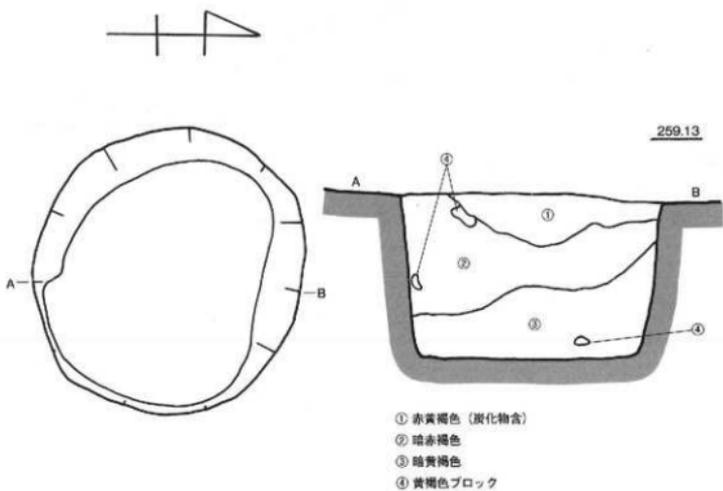
出土遺物 押型文土器1点。

時代 縄文時代早期。

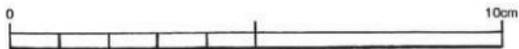
備考 土坑内から少量の炭化物検出。



第7图 SI-1实测图 (1:40)



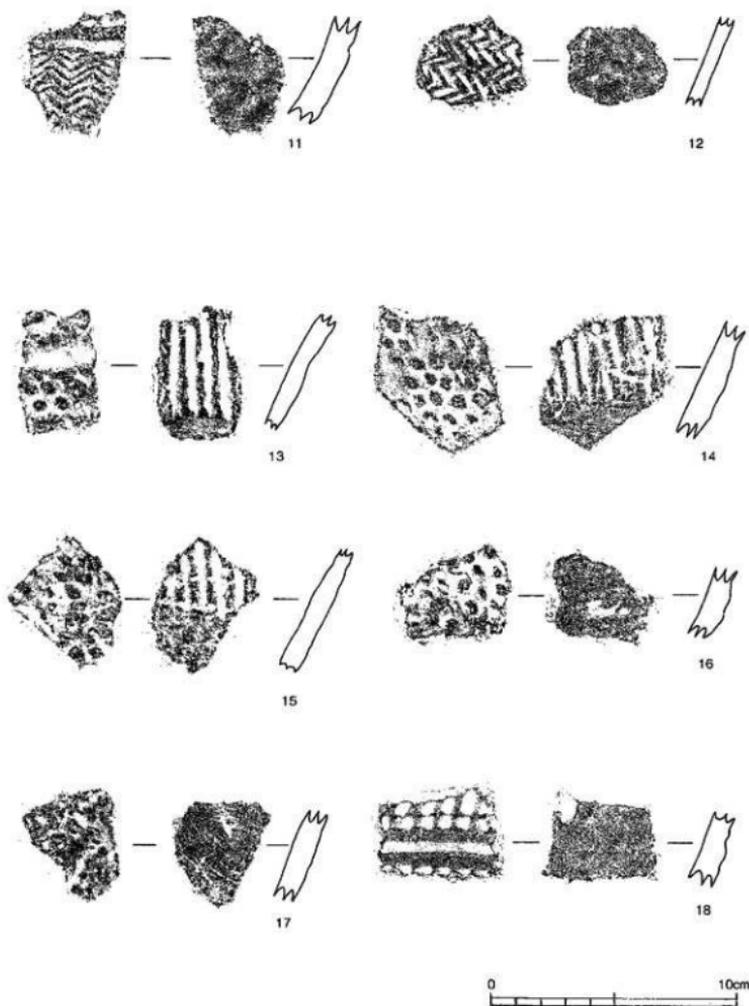
第8図 SK-1実測図 (1:20)



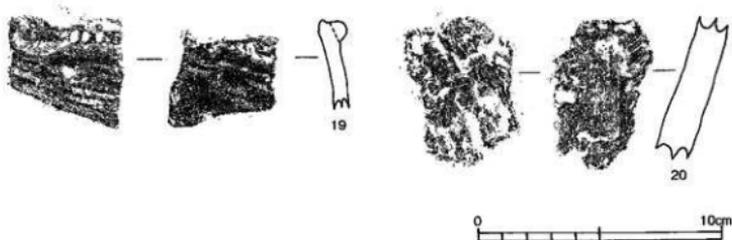
第9図 SK-1出土遺物実測図 (1:1)

SI-1周辺で出土した縄文時代の遺物（第10～14図、第1表、図版第6b～9b）

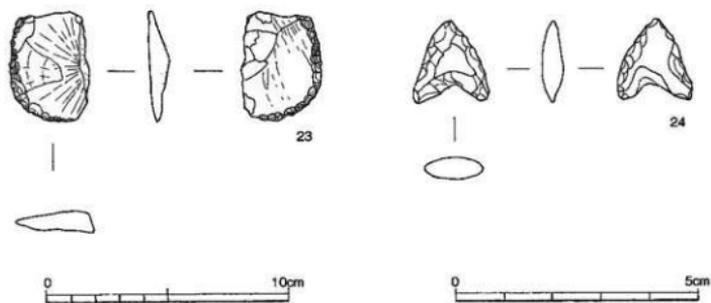
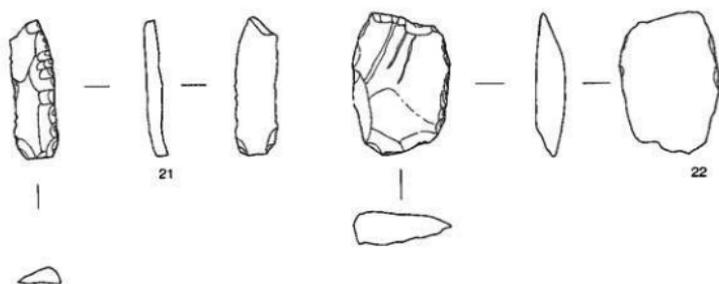
調査区北西側のSI-1付近を中心に土器54点出土。石器163点出土、その内土器11点、石器13点を図化。



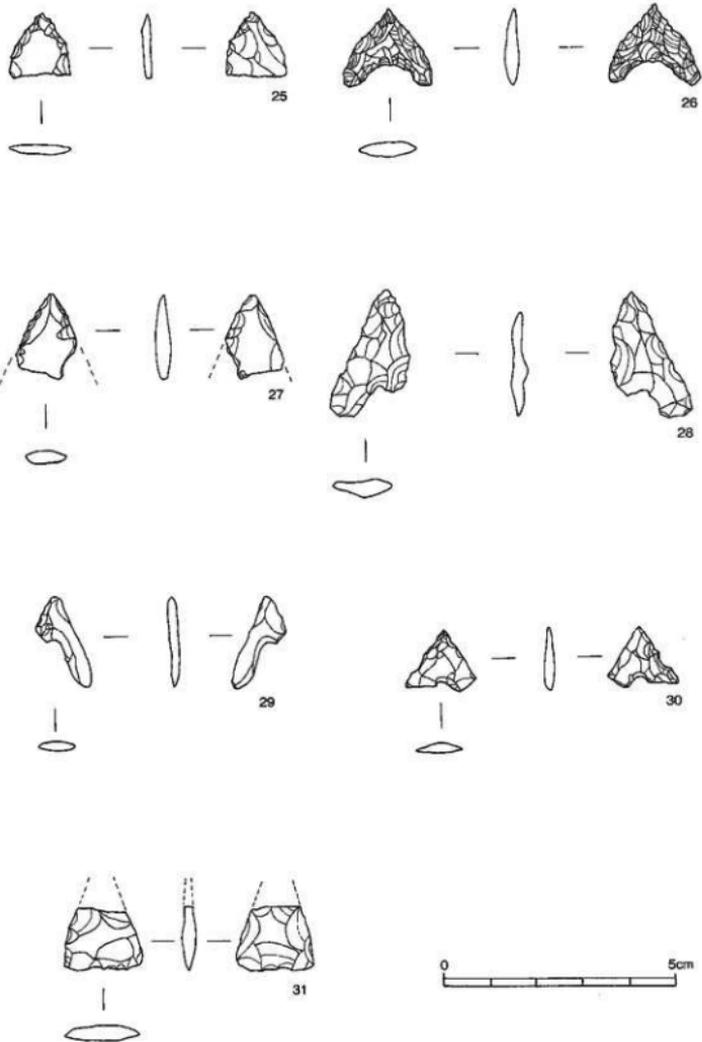
第10図 縄文土器実測図① (1:2)



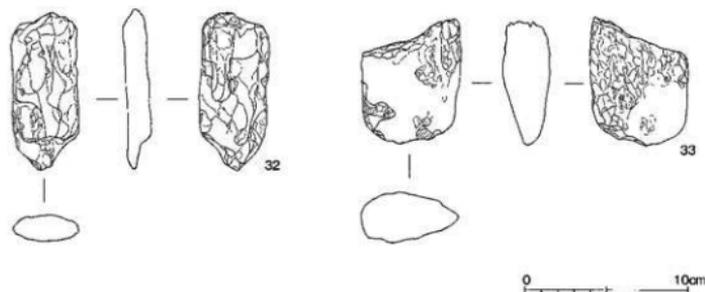
第11図 縄文土器実測図② (1:2)



第12図 石器実測図① (1:2)、石鏃 (1:1)



第13图 石鏃实测图② (1:1)



第14図 石鏃実測図③ (1:3)

古墳の調査

古墳時代の調査

標高295m付近で古墳2基、標高283m付近で1基検出した。それぞれ周溝を有するが、1号墳を除いて墳丘は消滅している。

a. 1号古墳 (第4・15~18図、第1表、図版第9c~13c)

県道高見出羽線の道路改良工事に伴う事前分布調査によって、存在が明らかになった古墳である。調査区西側の標高295m付近の丘陵尾根上頂部付近に位置する。

平面形・規模 円墳、直径8m。

埋葬主体部 墳丘中央部からやや西側に位置する。平面形はいびつな隅丸長方形で、2.5m、幅0.9~1.1m、深さ25cm。中央部に箱式石棺1基。

石 棺 長さ1.79m、幅は北側小口21cm、中央35cm、南側小口28cm、深さ18~32cm。

蓋石は7枚で長さ31~79cm、幅20~39cm、厚さ7~20cm。

側石は6枚で東側は長さ19~49cm、高さ23~40cm、厚さ7~14cm、西側は長さ22~42cm、高さ24~32cm、厚さ4~11cm。不定形で石材は花崗岩。頭位は南。

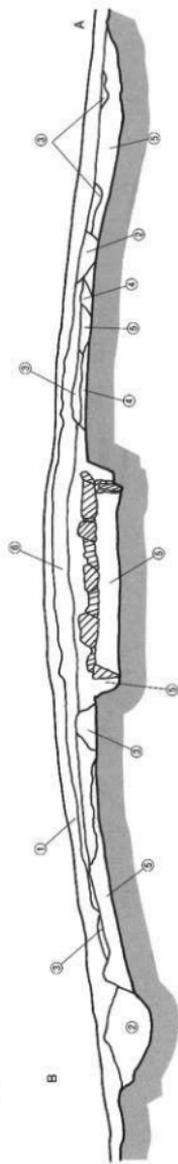
周 溝 墳丘北端から弧状に廻る。長さ14.8m、上幅1.5~2.8m、底幅0.35~1.0m、深さ83cm。

出土遺物 周溝底部から土師器1点出土。

時 代 4~5世紀。

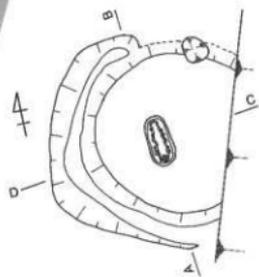
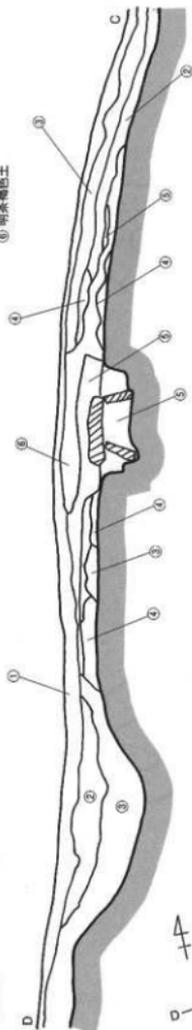
備 考 蓋石上面にベンガラが認められる。

295.60

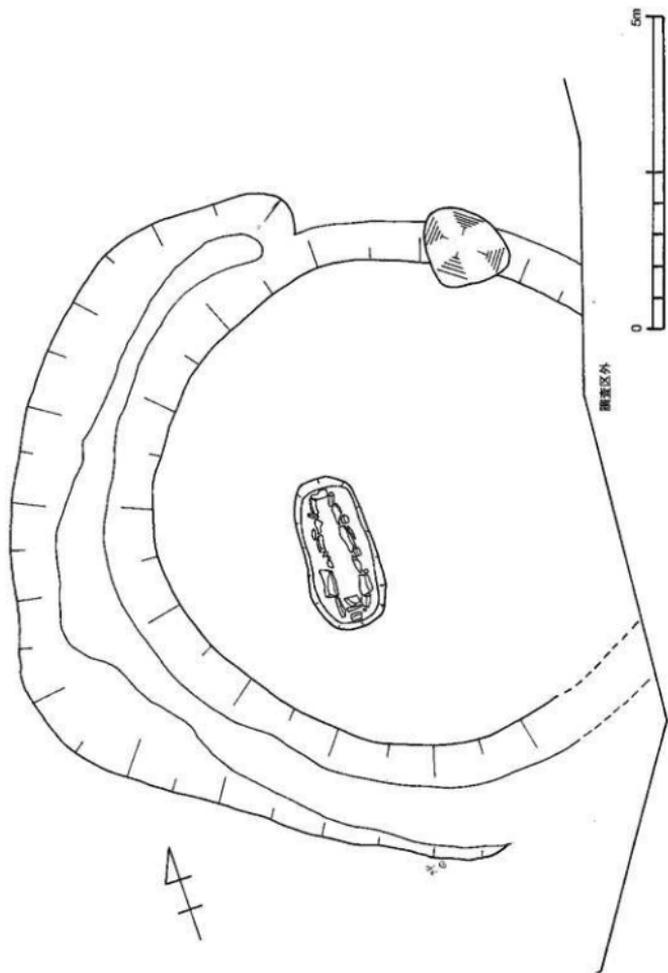


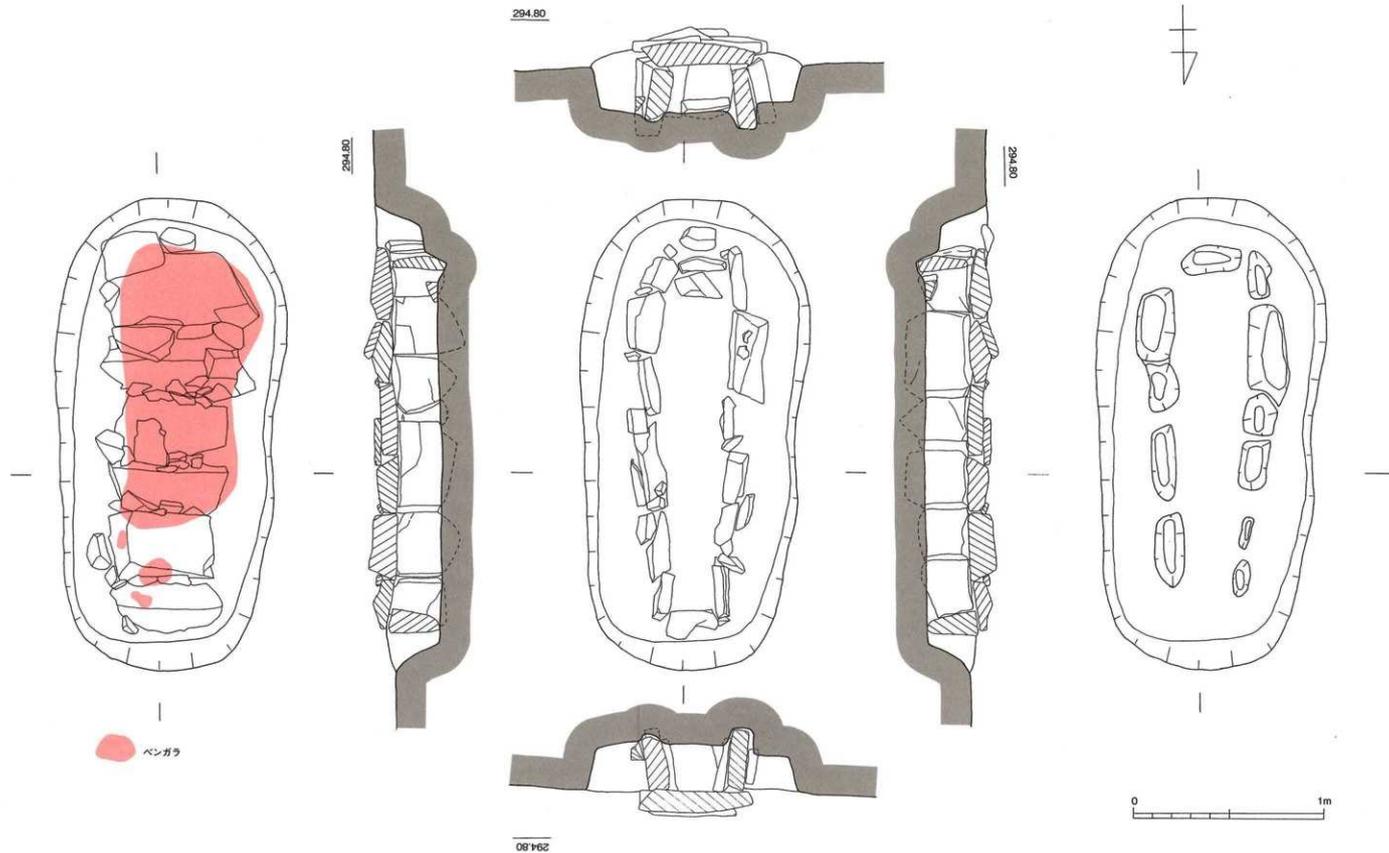
- ① 表土
- ② 黑褐色土
- ③ 暗茶褐色土
- ④ 黄褐色土
- ⑤ 灰褐色土
- ⑥ 明茶褐色土

295.60

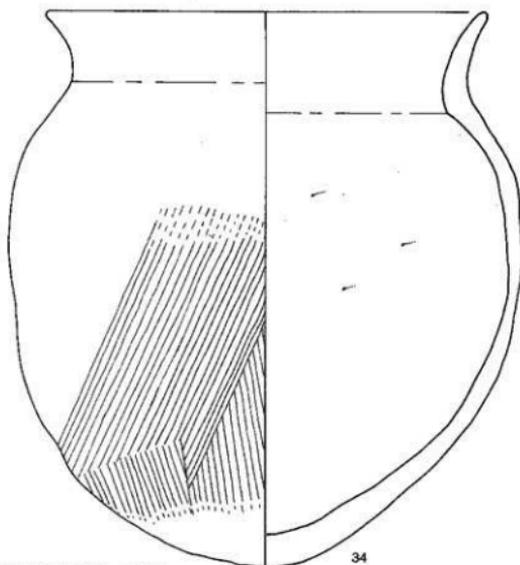


第15图 板根谷1号墳填丘土層断面图(1:50)





第17図 1号墳埋葬主体部箱式石棺実測図 (1:20)



第18図 1号墳出土遺物実測図 (2:3)



b. 2号墳 (第4・19・20図、第1表、図版第14a~15c)

1号墳の南南側約5mに位置する。墳丘は消滅。

平面形・規模 円墳、復元直径 3~4m。

埋葬主体部 有段土坑で、長さ2.2m(検出長)、幅0.9~1.0cm、深さ15cmの堀方内に、長さ1.7m、上幅35~60m、下幅20~30cm、深さ35~39cmの土坑を設ける。

周溝 埋葬土坑の北東部から調査区界まで僅かに湾曲しながら廻る。検出規模は長さ4.6m、幅30~70cm、深さ8~23cm。

出土遺物 周溝東端部で鉄器5点出土。

時代 4~5世紀。

備考 挿図番号35は明器と考えられる。

c. 3号墳 (第4・21・22図、第1表、図版第16a~17c)

1号墳の北東側標高283mの山麓小平地に位置し、1号墳との距離は40mである。県道高見出羽線敷設時に墳丘の三分の二が破壊され消滅しており、墳丘も遺存していない。

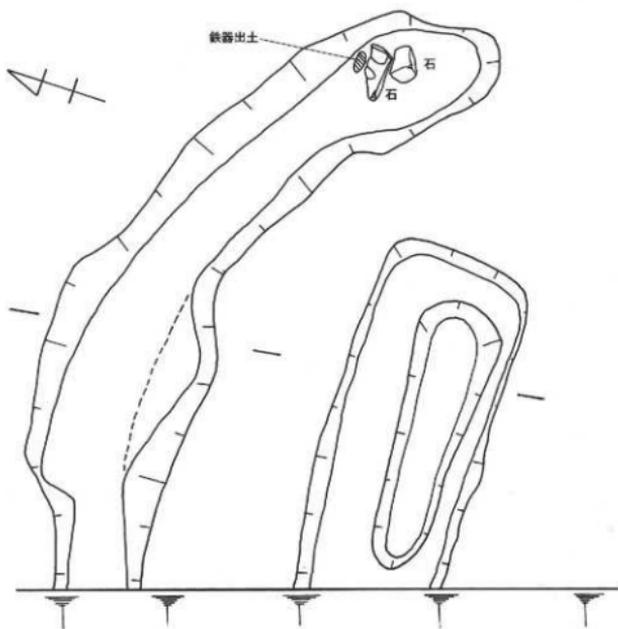
平面形・規模 円墳、復元直径約6.4m。

埋葬主体部 後世の削平により消滅。

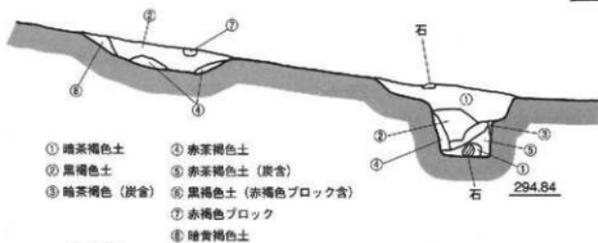
周溝 検出規模は、長さ10m、幅0.4~1.7m、深さは最深部で45cm。

出土遺物 周溝内で、須恵器片6点出土、内4点図化。

時代 5世紀。



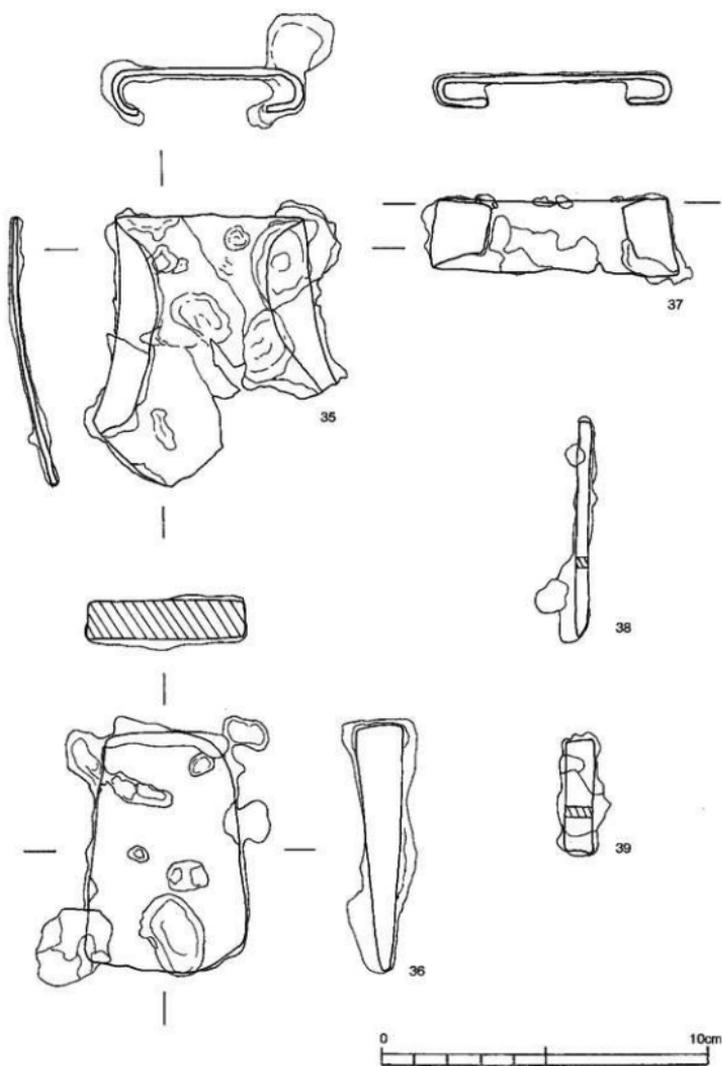
294.84



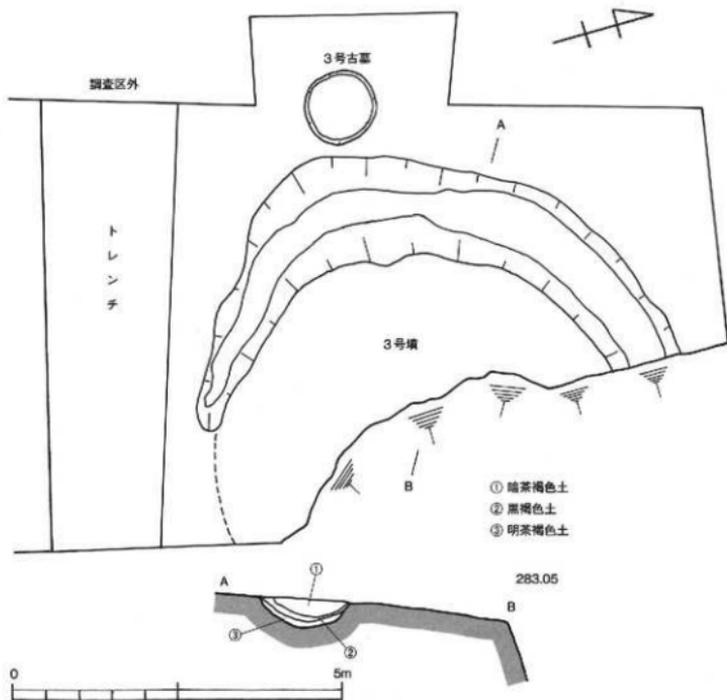
- ① 暗茶褐色土
- ② 黒褐色土
- ③ 暗茶褐色 (炭倉)
- ④ 赤茶褐色土
- ⑤ 赤茶褐色土 (炭倉)
- ⑥ 黒褐色土 (赤褐色ブロック倉)
- ⑦ 赤褐色ブロック
- ⑧ 暗黄褐色土

294.84

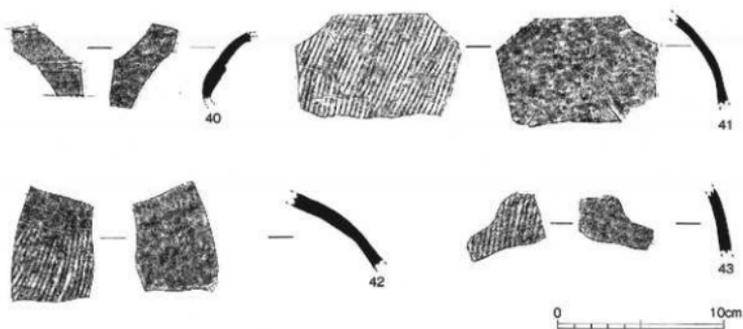
第19図 2号墳実測図 (1:30)



第20图 2号墳出土遺物実測図 (2:3)



第21図 3号墳・3号古墓実測図 (1:75)



第22図 3号墳出土遺物実測図 (1:3)

古墓の調査

古墓は第3調査区西側の山麓小平地で2基、第2調査区3号墳北側で1基検出した。

1号古墓（第4・23図、図版第17c・18a・c・19a、c）

平面形・規模 隅丸方形。上端長辺1.05m、短辺1.00m、深さ1.25m、底部長辺0.75m、短辺0.75m。

床面は平滑。

墓標石等 墓坑上に35～60cm大の花崗岩5個を検出。

出土遺物 なし。

時代 近世～近代。

2号古墓（第4・23図、図版第17c・18b、19b～20b）

1号古墓の北側50cmに位置する。

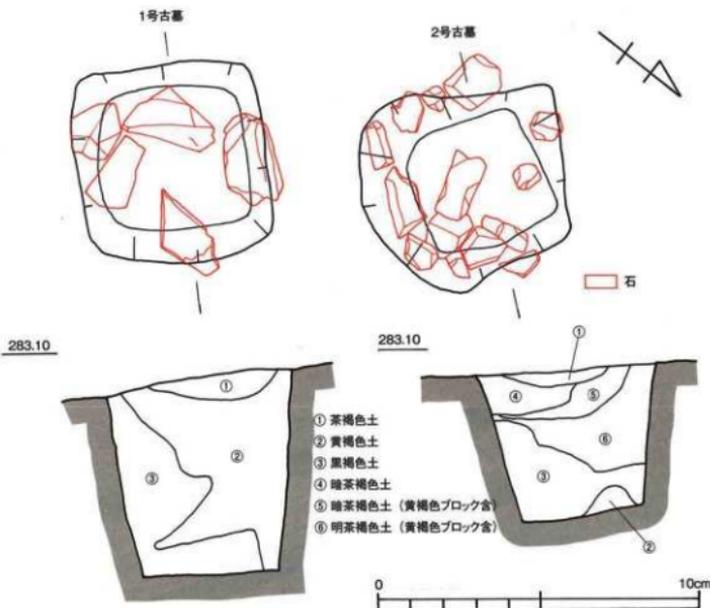
平面形・規模 不整形な隅丸方形。上端長辺1.3m、短辺0.7m、深さ0.93m、底部長辺0.75m、短辺0.65m。

墓標石等 古墓上に15～45cmの花崗岩の自然石14個検出。

出土遺物 なし。

時代 近世～近代。

備考 1号古墓との前後関係は不明であるが、位置関係から血縁関係の墓か。



第23図 1号古墓・2号古墓実測図（1:20）

3号古墳 (第4・21・24図、図版第20c~21b)

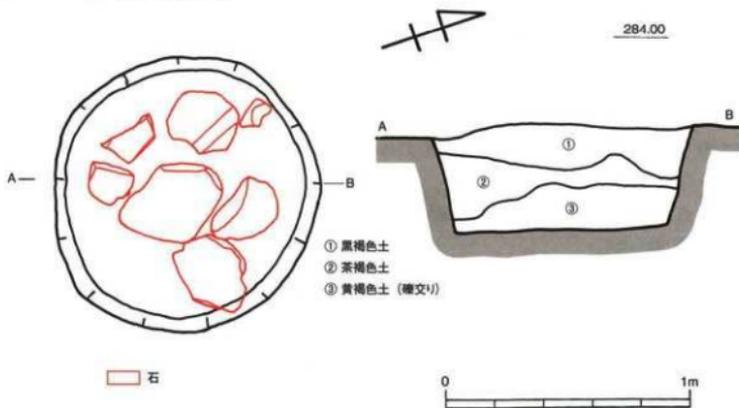
3号墳の周溝西側に隣接して検出された。周溝の一部を3号古墳が切っている。

平面形・規模 円形で直径1.03m、深さ0.35m、床面は平滑。

墓標石等 13~44cmの自然石7個検出。

出土遺物 なし。

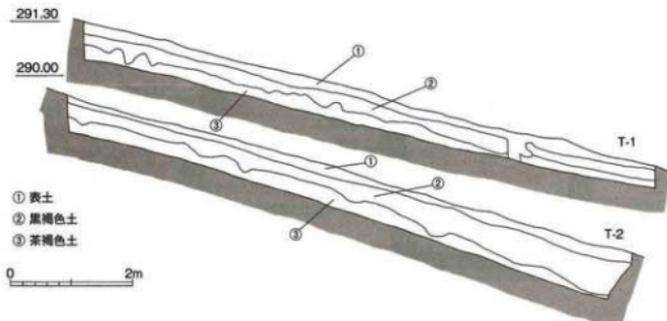
時代 不明 (中世か)。



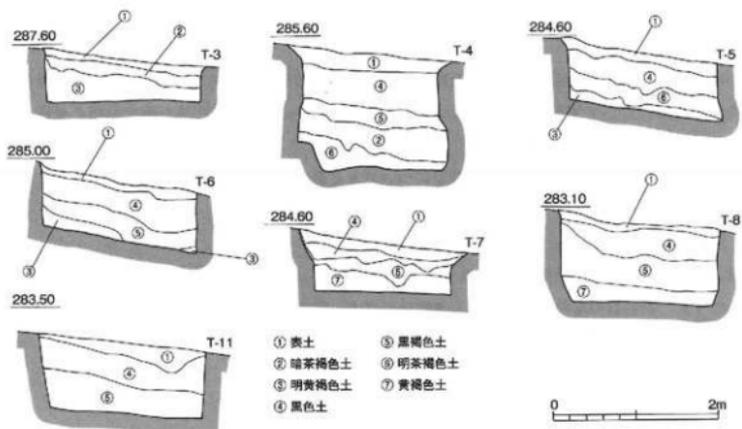
第24図 3号古墳実測図 (1:20)

試掘調査 (第4・25~27図、図版第21c~22b)

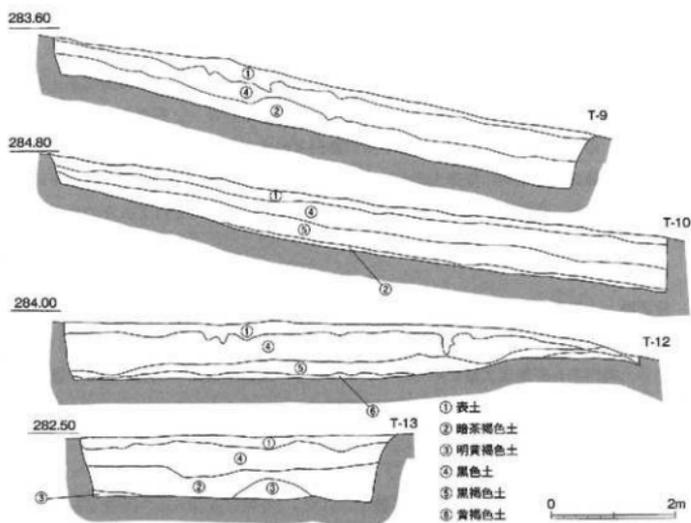
遺跡の範囲確認のため、試掘溝を 箇所設定し調査を実施した。斜面部は概ね3層に、調査区北側の平坦部では4層に分層でき、一部流れ込みと考えられる土器の小片が少量出土したが、遺構等は検出できなかった。



第25図 トレンチ断面実測図① (1:80)



第26図 トレンチ断面実測図② (1:60)



第27図 トレンチ断面実測図③ (1:80)

IV. ま と め

今回の邑智郡瑞穂町における坂根谷遺跡発掘調査は、県道高見出羽線の道路改良工事により掘削を受ける部分について実施した。限られた範囲の調査であったが、旧石器や縄文早期の遺構、遺物、古墳3基、古墓3基を検出した。

以下、調査によって得られた成果の概要についてまとめておきたい。

1、旧石器について

出土した石器は調査区全体で160点以上であったが、そのほとんどは剥片である。

そのうち、旧石器のものとして推測される遺物は45点で、調査区の北西部でほとんどが出土しているが、縄文時代の遺物と同レベルで出土することから、古墳造営期以降に擾乱をうけたと考えられる。出土した石器は楔形石器、台形様石器、搔器、スクレーパー等で、石材は流紋岩、安山岩、水晶、凝灰石などである。

2、縄文時代の遺物について

石器

石鏃の他、スクレーパーや尖頭器、石斧が出土している。石鏃は黒曜石や安山岩製で凹基無茎式や平基無形式のもので、完形品は少なく、尖頭部や執り部等が欠損しているものが多い。スクレーパーは縄文時代より遡る可能性の者もある。尖頭器は尖塔部を欠き、石斧は身の一部を欠く。

土器

出土した土器の多くは小片であるが、早期に属し、文様などの特徴から押型文系土器や無文で織紙が混入している土器に大別することができるが、無文土器が多い。押型文系土器はシャープな山型文土器や、器表面に3～7mm程度の小型の楕円文のある黄島系土器や、粗大な楕円文や口縁内に面に太い沈線を描いた高山寺系土器が出土しているが、量的には高山寺系土器が多い。

以上のことから、坂根谷遺跡では縄文時代早期中頃から早期末にかけて人々の営みがあったことが判明した。

3、住居跡、土坑について

本遺跡では住居跡1棟と土坑1基検出したが、住居跡のピット等から遺物は出土していないが、近接する土坑内から押型文土器が出土していることや、遺構周辺から縄文早期の土器や石器が集中して出土していることから、縄文時代早期の遺構であると考えられる。

4、古墳時代の遺構について

1号・2号墳は丘陵尾根上の調査区にて検出された。1号墳は直径8mの円墳である。埋葬施設は箱式石棺で、1基のみ検出された。石棺内部から人骨、副葬品等は全く出土しなかったが、蓋石上部にはベンガラが認められた。また周溝底部から土師器の壺が1点出土している。2号墳は二重土

坑を埋葬施設とする古墳で、1号墳から南西側に約5m離れた場所に位置する。土坑の北側に周溝が設けられていて、周溝東端部からは鉄器が5点出土している。その1つが明器であることも興味深い。4～5世紀に当地方で鉄と深くかかわった一族の古墳であろうか。

3号墳は、北側平坦掘削面の東端部で検出された。墳丘の一部と周溝の一部を検出したが、主体部は破壊されていたため検出できなかった。周溝北端部より古相の須恵器が出土していることから、古墳時代中期に造営されたと考えられる。

5、古墓について

3基の古墓を検出したが、1号古墓と2号古墓は遺物等の出土は無いが、平面形等から近世～近代にかけて埋葬されたものと考えられ、墓坑の位置関係から血族関係等の近親者の墓であると考えられる。3号古墓も遺物等の出土も無く時代を確定するのは困難であるが、中世から近世にかけてのものであると推定される。

6、おわりに

今回の調査は、道路改良工事に伴う限られた範囲の発掘調査であったが、町内で2例目となる縄文時代早期の住居跡や、町内ではあまり調査例のない古墳前半期の円墳の構造の一端を明らかにすることができ、当地方の縄文時代や古墳を考えるうえで貴重な資料を得ることができた。また、町内では4例目となる旧石器時代の遺跡の存在も明らかとなった。本遺跡の約200m東側には、県内で初めて旧石器の文化層を確認した横道遺跡が所在しており、今後両遺跡の関連性について考察、検討していく必要がある。



発掘調査風景

坂根谷遺跡から出土した顔料の分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

環徳町に所在する坂根谷遺跡の発掘調査では、縄文時代早期とされる土器や石器、古墳および近世とされる古墓が検出されている。これらのうち、古墳については1号墳から3号墳までの3基が確認されているが、2号墳および3号墳は墳丘が消滅しており、周溝の一部や埋葬坑が確認されたにすぎない。唯一墳丘の残る1号墳では、石棺が確認され、石製の枕が検出されているが、人骨や副葬品は確認されていない。周溝から出土した土師器甕の特徴から5世紀頃の築造と考えられている。さらに石棺の蓋の上および石棺内からは、赤褐色を帯びた土塊様のものが撒かれている状況が確認されており、発掘調査所見では、この赤褐色の土塊を何らかの意味で撒かれた赤色顔料の可能性があるとした。

本報告では、赤褐色の土塊について分析を行い、赤色顔料の含有の有無について検証する。西日本の古墳から検出される赤色顔料については、施朱の風習として認識されており、その展開には大和政権との関係が大きく働いているとも考えられている(市毛, 1998)。今回の分析により赤色顔料が検出されれば、施朱に関する新たな資料となる可能性もある。

1. 試料

試料は、坂根谷遺跡1号墳の箱式石棺蓋上から採取された赤褐色を呈する土塊1点である。同様の物質は石棺内からも検出されているが、発掘調査所見では蓋上のもも石棺内のもも塗布されたものではなく、撒かれたものであると考えられている。

2. 分析方法

一般に遺跡などで検出される代表的な赤色顔料にはベンガラ(赤鉄鉱; hematite [$\alpha\text{-Fe}_2\text{O}_3$])のほか、水銀朱(辰砂; cinnabar [HgS])、鉛丹(鉛丹; minium [Pb_3O_4])などいずれも鉱物であることから、その検出にはX線回折分析を用いる。以下に処理過程について述べる。

105℃で2時間乾燥させた試料をメノウ乳鉢で微粉砕しアセトンを用いてスライドガラスに塗布し、X線回折測定試料とする。作成したX線回折測定試料について以下の条件で測定を実施する(足立, 1980; 日本粘土学会, 1987)。

検出された物質の同定解析は、測定回折線の主要ピークと回折角度から原子面間隔および相対強度を計算し、それに該当する化合物または鉱物をX線粉末回折線総合解析プログラムにより検索する。

装置: 島津製作所製XD-3A	Time Constant: 1.0sec
Target: Cu (K α)	Scanning Speed: 2°/min
Filter: Ni	Chart Speed: 2cm/min
Voltage: 30KVp	Divergency: 1°
Current: 30mA	Receiving Slit: 0.3mm
Count Full Scale: 5,000C/S	Scanning Range: 3~45°

3. 結果

試料のX線回折図を図1に示す。検出された鉱物は、石英(quartz)、斜長石(plagioclase)、

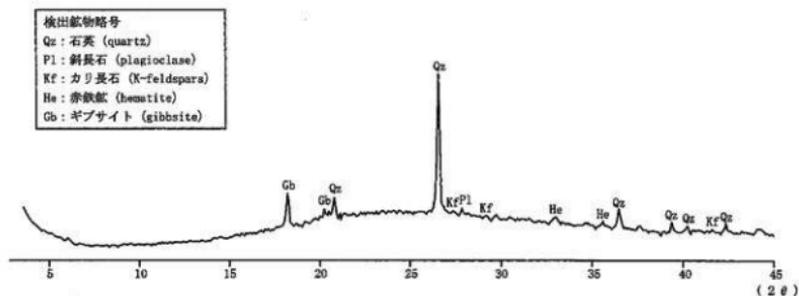


図1 試料のX線回折図

カリ長石 (K-feldspars)、赤鉄鉱 (hematite) およびギブサイト (gibbsite) の5鉱物である。これらのうち、赤色を呈する鉱物は赤鉄鉱 (hematite) が代表的であることから、赤色顔料の素材としてはベンガラと判断される。なお、他の検出鉱物は岩石や土壌にごく一般的に認められる鉱物である。

4. 考察

上記分析結果より、今回の試料は、土とベンガラの混合物であると考えられる。前述の市毛 (1998) によれば、前期古墳における施朱では、被葬者に赤色顔料を振りかける第一の施朱法と石室の天井や壁・床などにベンガラ水溶液を塗布する第二の施朱法とがあったとされている。また、第一の施朱法では、頭胸部に振りかける顔料は水銀朱、胸部以下はベンガラという使い分けがされていた例が多いとも述べられている。今回の土とベンガラの混合物の検出状況は、上記第一の施朱法と第二の施朱法とを非常に簡略化した形態のようにも思える。今後の発掘調査による類例の所見を待ちたい。

文献

- 足立吟也 (1980) 「6章 粉末X線回折法 機器分析のてびき3」, p.64-76, 化学同人。
 市毛 勲 (1998) 新版 朱の考古学, 296p., 雄山閣。
 日本粘土学会編 (1987) 「粘土ハンドブック 第二版」, 1289p., 技報堂出版。

第1表 坂根谷遺跡出土土遺物観察表

発掘番号	出土位置	器種	寸法			胎土	焼成	色調		文様及び手法の特徴その他
			口径	底径	器高			外面	内面	
1	第1調査区西側	旧石器 削器	長さ5.5cm、幅4.7cm、厚さ1.5cm、重さ50.6g						流紋岩	
2	"	旧石器 削器	長さ4.7cm、幅3.6cm、厚さ0.9cm、重さ13.7g						流紋岩	
3	"	旧石器 石鏃?	長さ5.8cm、幅4.3cm、厚さ1.1cm、重さ33.9g						水晶	
4	"	旧石器 槌形石器	長さ2.4cm、幅1.4cm、厚さ0.6cm、重さ1.5g						安山岩	
5	"	旧石器 槌形石器	長さ3.3cm、幅2.0cm、厚さ1.2cm、重さ7.7g						安山岩	
6	"	旧石器 槌形石器	長さ1.6cm、幅2.2cm、厚さ0.6cm、重さ2.6g						安山岩	
7	"	旧石器 削器	長さ5.6cm、幅5.3cm、厚さ0.8cm、重さ21.7g						安山岩	
8	"	旧石器 槌形石器	長さ4.1cm、幅1.3cm、厚さ0.7cm、重さ3.6g						安山岩	
9	"	旧石器 槌形石器	長さ2.2cm、幅1.5cm、厚さ0.9cm、重さ1.9g						水晶	
10	SK-1	縄文土器				密	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	外面3×5cmの積円文、内面ナデ 器壁厚7mm
11	SI-1・SK-1 周辺	縄文土器				密	良好	灰褐色	褐色	外面2面の線文、シャープな山形文、内面ナデ 器壁厚1cm
12	"	縄文土器				密	良好	淡褐色	淡褐色	外面シャープな山形文、内面ナデ 器壁厚6mm
13	"	縄文土器				密	良好	淡褐色	淡褐色	外面5mm程度の積円文、内面平行線紋、沈渾より 下はナデ、器壁7～9mm
14	"	縄文土器				密	良好	灰褐色	淡褐色	外面6×8mmの積円文、内面w=6mmの斜行沈渾、 沈渾以下はナデ、器壁厚9～10mm
15	"	縄文土器				密	良好	淡褐色	淡褐色	外面6×7mmの積円文、内面5mm斜行沈渾、 沈渾以下ナデ、器壁厚7～11mm
16	"	縄文土器				密	良好	淡褐色	淡褐色	外面5×8mmの積円文、内面ナデ、器壁厚9mm
17	"	縄文土器				密	良好	灰褐色	淡褐色	外面5×8mmの磨れた積円文、内面ナデ 器壁厚9mm
18	"	縄文土器				密	良好	褐色	褐色	外面引状の刺突文、内面ナデ、器壁厚9mm
19	"	縄文土器				密	良好	褐色	褐色	外面口縁部斜目状刺突と積円状の突起(貼付)、突 渾より下はヘラミガキ、内面ヘラミガキ
20	"	縄文土器				密	良好	灰褐色	灰褐色	内外無文、器壁厚1.2～1.4cm、胎土織織入 器壁厚1.2～1.4cm
21	"	石器 削器	長さ5.7cm、幅1.9cm、厚さ7mm、重さ7.3g							流紋岩、旧石器に属する可能性あり
22	"	石器 削器	長さ5.8cm、幅4.0cm、厚さ1.3cm、重さ30.1g							凝灰岩
23	"	石器 削器	長さ4.5cm、幅3.2cm、厚さ0.9cm、重さ11.2g							安山岩
24	"	石器 石鏃	長さ1.7cm、幅1.6cm、厚さ4mm、重さ0.9g							安山岩
25	"	石器 石鏃	長さ1.4cm、幅1.3cm、厚さ2mm、重さ0.5g							安山岩
26	"	石器 石鏃	長さ1.7cm、幅1.9cm、厚さ3mm、重さ0.7g							黒曜石
27	"	石器 石鏃	長さ1.8cm、幅1.3cm、厚さ3mm、重さ0.7g							安山岩
28	"	石器 石鏃	長さ2.7cm、幅1.5cm、厚さ4mm、重さ1.3g							安山岩
29	"	石器 石鏃	長さ1.9cm、幅1.2cm、厚さ2mm、重さ0.3g							安山岩
30	"	石器 石鏃	長さ1.3cm、幅1.0cm、厚さ2mm、重さ0.2g							安山岩
31	"	石器 石鏃	長さ1.6cm、幅1.5cm、厚さ3mm、重さ0.9g							安山岩、尖部欠
32	"	石器 尖部欠	長さ9.8cm、幅4.2cm、厚さ1.4cm、重さ95.6g							結晶片岩、尖部欠
33	"	石器 石弁	長さ7.6cm、幅5.0cm、厚さ2.8cm、重さ18.2g							結晶片岩
34	1号溝南溝	土師器 壺	13.2cm—17.0cm			密	良好	褐色	褐色	外面ハケ目、内面ヘラケスリ、完良品
35	2号溝南溝	鉄器 鍔先	長さ8.5cm、最大幅7.1cm、厚さ2mm、重さ49.3g							明器か
36	"	鉄器 板状鍔弁	長さ5.4cm、最大幅5.0cm、最大厚1.5cm、重さ172.5g							
37	"	鉄器 柄み鋸	長さ5.7cm、幅2.1cm、厚さ2mm、重さ15.0g							
38	"	鉄器 棒状鍔製品	長さ6.8cm、幅4mm、厚さ3mm、重さ2.7g							用途不明
39	"	鉄器 板状鍔製品	長さ3.4cm、幅5cm、厚さ3mm、重さ3.2g							用途不明
40	3号溝南溝	須恵器 須恵器				密	良好	灰褐色	灰褐色	外面定状文、ナデ、内面ナデ
42	"	須恵器 須恵器				密	良好	灰褐色	灰褐色	外面タタキ、内面ナデ
43	"	須恵器 須恵器				密	良好	灰褐色	灰褐色	外面タタキ、内面ナデ
44	"	須恵器 須恵器				密	良好	灰褐色	灰褐色	外面タタキ、内面ナデ

圖 版

a. 調査前遠景
(北から)



b. 同近景
(同)



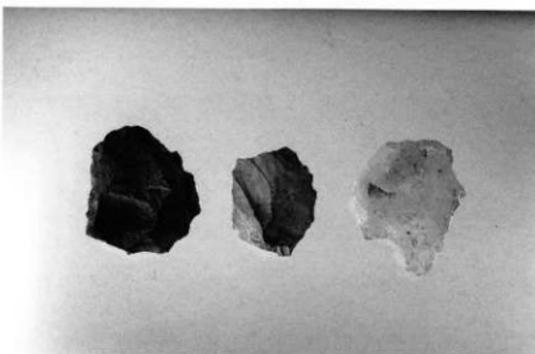
c. 同
(南から)



a. 第1調査区調査前近景
(北西から)



b. 第1調査区出土旧石器

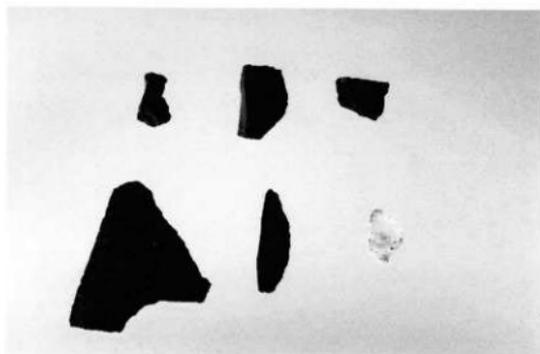


c. 同

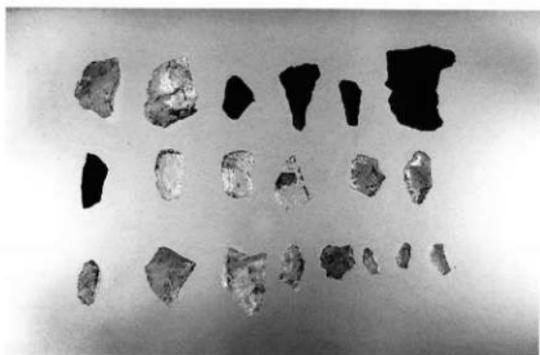




a. 第1调查区出土旧石器



b. 同



c. 同剥片

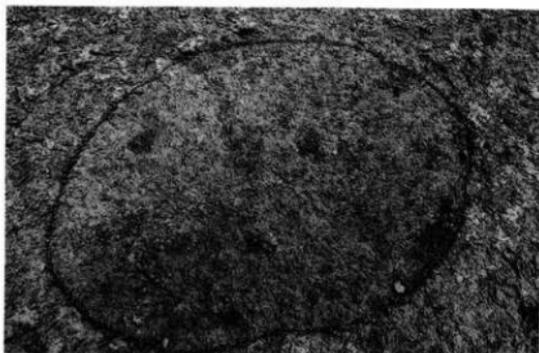
a. 第 1 調査区出土旧石器
剥片



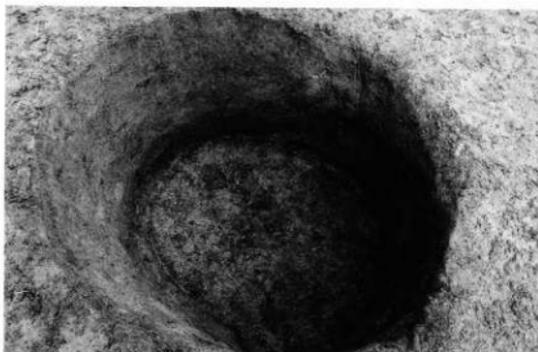
b. SI-1発掘状況
(南西から)



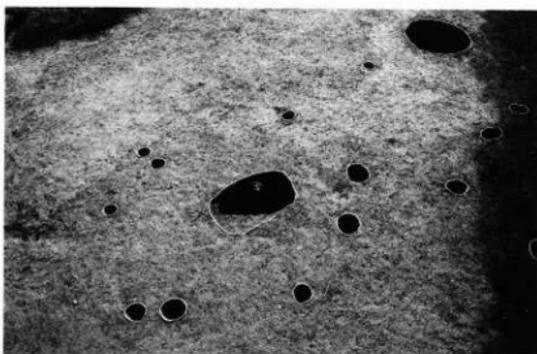
c. SK-1検出状況
(北から)



a. SK-1完掘状況
(北から)



b. SI-1・SK-1完掘状況
(北西から)



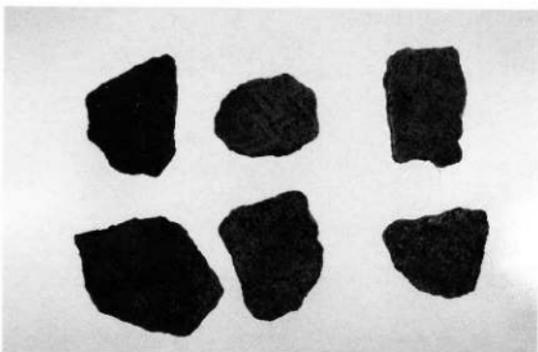
c. SK-1出土遺物
(外面)



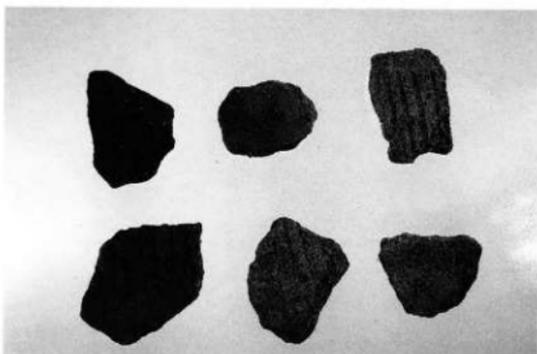
a. SK-1出土遺物
(内面)



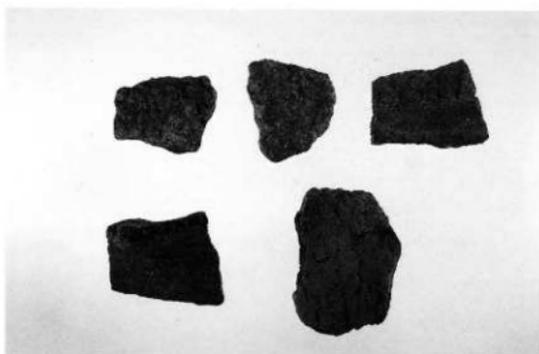
b. SI-1周辺で出土した遺物
(外面)



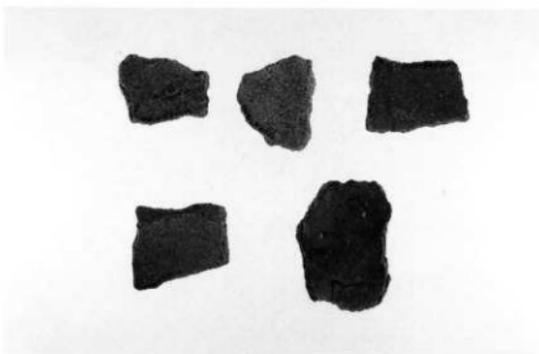
c. 同
(内面)



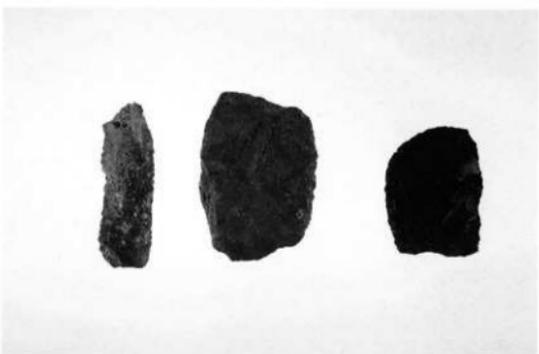
a. SI-1周辺で出土した遺物
(外面)

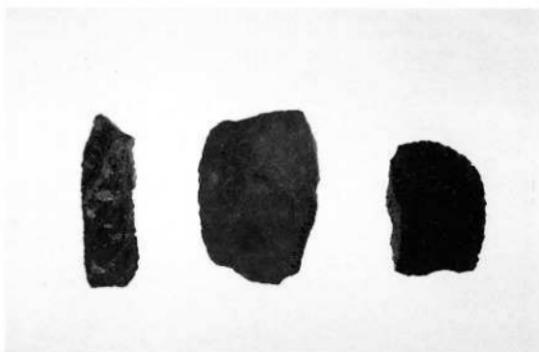


b. 同
(内面)

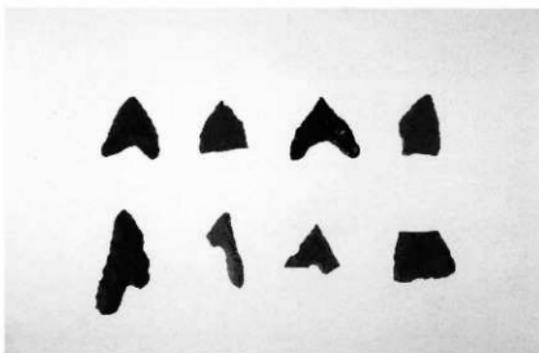


c. 同

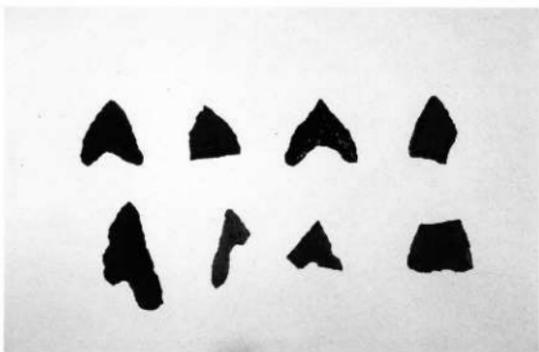




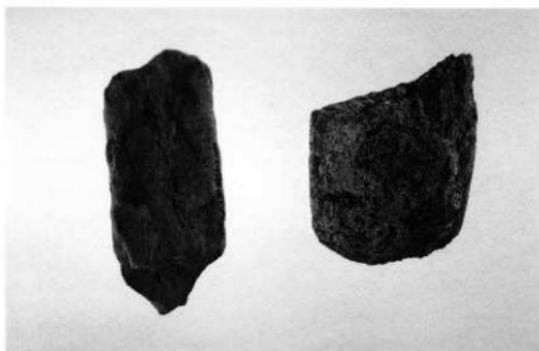
a. SI-1周辺で出土した遺物



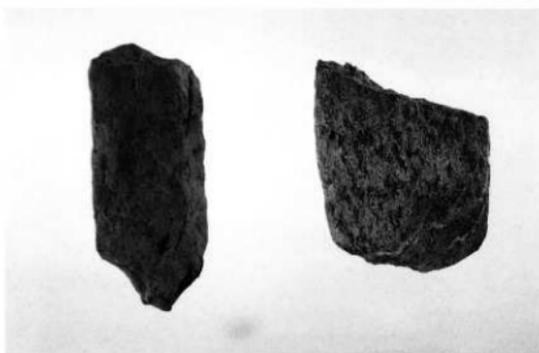
b. 同



c. 同



a. SI-1付近で出土した遺物



b. 同



c. 1号墳検出状況
(西から)

a. 1号墳完掘状況
(西から)



b. 主体部石棺検出状況
(西から)



c. 同
(南から)



a. 石棺蓋石除去後状況
(西から)



b. 主体部側石・小口石配
石状況
(同)



c. 同
(同)



a. 主体部側石・小口石配
石状況
(西から)



b. 石棺掘方検出状況
(北から)



c. 周溝北側土層断面
(西から)



a. 周溝西側土層断面
(南から)



b. 周溝内土器出土状況



c. 1号墳出土遺物



a. 2号墳検出状況
(北から)



b. 2号墳完掘状況
(北から)



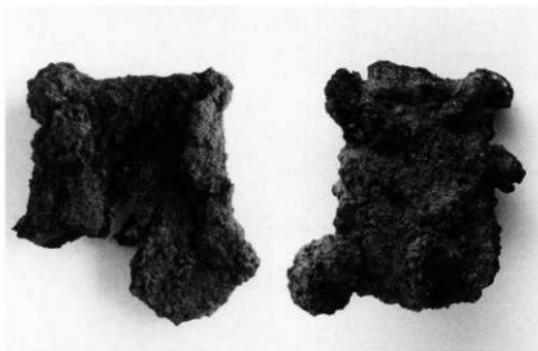
c. 同主体部完掘状況
(南から)



a. 2号墳主体部土層断面
(東から)



b. 2号墳出土遺物



c. 同



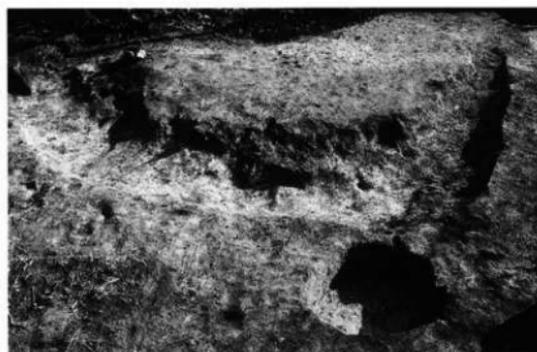
a. 3号墳検出状況
(西から)



b. 3号墳検出状況
(南から)



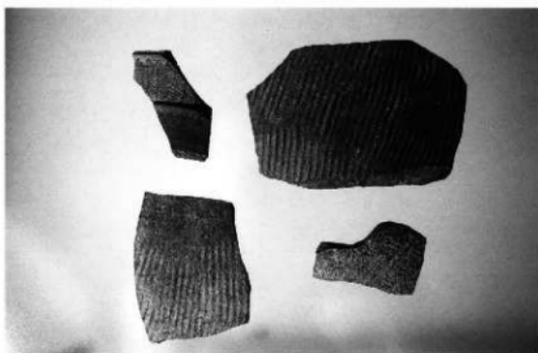
c. 同穴掘状況
(西から)



a. 3号墳周溝土層断面
(南から)



b. 3号墳出土遺物
(外面)



c. 同
(内面)



a. 1号古墓（左）・2号古墓（右）検出状況
（北から）



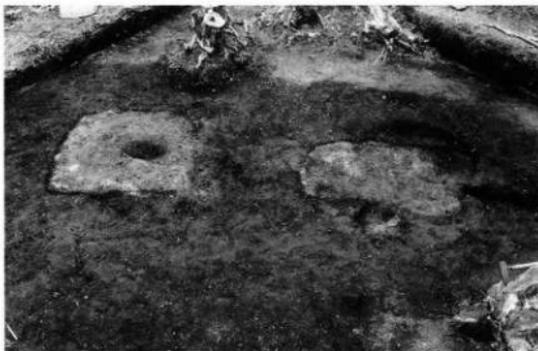
b. 1号古墓配石状況
（東から）



c. 2号古墓配石状況
（南東から）



a. 配石除去後掘方検出状況
(北東から)



b. 1号古墓土層断面
(南東から)



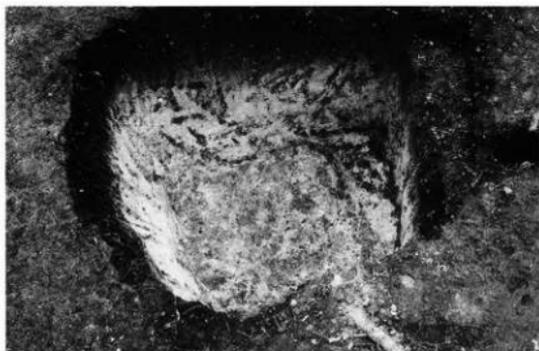
c. 2号古墓土層断面
(南東から)



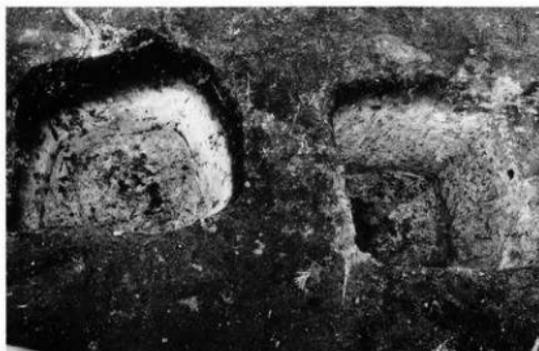
a. 1号古墓完掘状況
(北東から)



b. 2号古墓完掘状況
(北東から)



c. 1号古墓(右)・2号古
墓(左)完掘状況
(南東から)



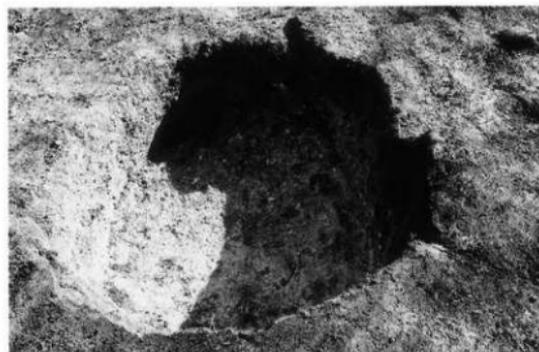
a. 3号古墓検出状況
(南から)



b. 同土層断面
(北から)



c. 同完掘状況
(北から)



a. T-2調査区
(南東から)



b. T-4調査区
(南東から)



c. T-13調査区
(西から)



a. 1号墳調査風景
(西から)



b. 1号墳より矢広原・流
田集落を望む
(北西から)



c. 現地見学会風景
(西から)



報 告 書 抄 録

ふりがな	さかねだにいせきはくつちょうさほうこくしよ							
書名	板根谷遺跡発掘調査報告書							
副書名	高見出羽線新世紀道路（生活関連）工事に伴う発掘調査報告書							
巻次	瑞穂町埋蔵文化財調査報告書第28集							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	森岡弘典 佐々木義彦							
編集機関	瑞穂町教育委員会							
所在地	〒696-0311 鳥根県邑智郡瑞穂町大字三日市32番地							
発行年月日	西暦 2002年3月							
所収遺跡名	所在地	コード				調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	緯緯	北緯	東経			
板根谷遺跡	鳥根県邑智郡瑞穂町大字原村1166番地外	32445		34度53分22秒	132度33分28秒	20000703 ～20001207	460	道路工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
板根谷遺跡	住居跡 古墳 古墓	旧石器 縄文 古墳 近世	住居跡、土坑 古墳3基 古墓3基	スクレーパー、剥片 押型文土器、石器 鉄器、土師器				

平成14(2002)年3月

高根県邑智郡瑞穂町

坂根谷遺跡発掘調査報告書

高見山羽線新世紀道路(生活関連)工事
に伴う発掘調査

編集・発行 高根県邑智郡瑞穂町教育委員会
印刷 柏村印刷株式会社